

企画セッション

「フィールド実験の手引き—EBPM 推進のための経済学者の関わり方」

京都大学経済研究所 西山 慶彦

一橋大学経済研究所 宇南山 卓

1) 企画の趣旨と概要

日本学術会議経済学委員会、数量的経済・政策分科会は 2010 年より春季大会においてチュートリアルセッションを企画、提供しております。2020 年度の当該セッションを「フィールド実験の手引き—EBPM 推進のための経済学者の関わり方」というテーマで開催することを希望いたします。これは、近年政府において推進されている EBPM(Evidence based policy making)の現状とそのための実験研究、さらには実装にむけて経済学者ができる貢献やその方法を現状も含めて紹介するというトピックです。概要は以下の通りです。

概要:

フィールド実験は EBPM(Evidence-Based Policy Making)を推進するために有用なツールであるが、行政現場で実践するためには外部の研究者に協力が求められることも少なくない。本セッションでは、経済学者が行政と組んでフィールド実験を行う際のコツを紹介する。

2) 形式: 招聘講演者2名による講演

3) 希望時間: 2 時間(できれば、通例どおり初日の午後を希望します)

4) 登壇者

小林 庸平先生(三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株))

青柳 恵太郎先生(メトリクスワークコンサルタンツ(株))

5) その他

研究報告ではなく、最新の EBPM の現状や動向、実装に向けた取組みなどをご紹介頂くという趣旨のチュートリアルセッションのため、論文提出はございません。